

堺

もずはちまんぐう 百舌鳥八幡宮

言伝によると西暦532～571年(欽明天皇の時代)に、神功皇后が三韓征討を終えて難波の宮に帰る途中にこの地に留まり幾万年後までも天下泰平の世が続くよう祈願され、八幡大神の宣託を受けてこの地を万代(もず)と称し神社を創建したのが始まりとされている。

中世の保元年間には石清水八幡宮の別宮となり、また南北朝時代に恒明親王の献詠、応安年間に大内義弘氏の寄進、江戸時代には毎年堺町奉行の参向など古くから公武の崇敬が厚かった。

社殿は本殿・幣殿・拝殿・東華門・西華門を具備し、享保11年(1726年)の建立で、昭和46年に修復され現代に至る。

社殿の大きさでは大阪府下屈指といわれており、外に若宮社・市杵島社・稲荷社・招魂社・絵馬殿・神庫があり、社域は約1万坪に及ぶ。

中でも社前の巨大楠木は樹齢800年で大阪府の天然記念物に指定されており、楠に手を合



社殿	石段下より 社殿を仰ぎ見る
石段の上から 振り返った風景	ふとん太鼓
樹齢 800 年の 大楠	

所在地：堺市北区百舌鳥赤畑町 5 丁 706
最寄駅：JR 阪和線「百舌鳥駅」下車徒歩 10 分
南海高野線「百舌鳥八幡駅」下車徒歩 10 分
地下鉄御堂筋線「なかもず駅」下車徒歩 20 分
見学：自由

わせておられる方も多く見受けられる。

毎年仲秋の名月に当たる旧暦8月15日にかけて行われる月見祭は、古くより堺、泉州の人々に親しまれてきた。この祭りは、稲の成熟期を迎え豊作を祈るための祭りとして、八幡宮に伝わる放生会、満月を祝う風習とが習合して神社の例祭となったもので、記録によると300年以上の伝統があり、近年は勇壮華麗なふとん太鼓で有名となっている。

氏子9町(赤畑町、梅町、梅北町、中百舌鳥町、本町、西之町、陵南町、土師町、土塔町)から大小17基のふとん太鼓が奉納され境内を埋め尽くす。重さ2トン～3トンもある太鼓台を60～70人で担ぎ上げ、境内を練り歩く姿は、まさに圧巻である。

今年は、9月22日(土)23日(日)に行なわれる。普段の境内の清楚な空気と祭りの活力漲る空気の両対称を味わえるのも又、一興かな。

(西野一哉)